

子どもの家幼稚園 聖書から理解する子育てについて  
第1回「子どもたちを抱きしめていますか」2019/05/30

1. 心の病を抱える子どもたちの実態

現代心の病を抱える子供の実態が明らかになってきた。ある調査によると小学生の1.6%、中学生の4.6%が鬱病と診断されたそうである。このデータによると100人に1人強の小学生、25人に1人強の中学生が鬱病を抱えて生きていることが理解できる。また25歳から35歳にかけて発症しやすいとパニック障害を既に小学生の時に発症する子どもたちの割合は約1%。100人に1人の小学生たちがパニック障害だと診断されている。更に、何らかの不安障害を抱える子どもたちの割合は約10%。10人に1人の子どもたちは何らかの不安障害を抱えて生きていることが理解できる。

2. 母子関係

子どもたちのこのような心の病の最たる原因は母子関係にあると多くの心理の専門家は言及する。人間の人格形成において最初に人間が学ぶことは「愛着(安心感)」である。乳幼児が母親に対して様々な要求をする。それに対して、母親がそれに応える。これによって子どもたちは「愛着、基本的な安心感」を獲得していくのである。

もし母親が子どもの要求に十分に答えなかった場合、子どもたちは「愛着、基本的安心感」を十分の獲得できない。このような子どもたちは将来様々な機会で、不安に駆られ、常に他者に不信を抱く子どもへと成長するのである。このことが様々な心の病の原因となり、またこのような子どもたちは常に不信を抱くために、将来他者を心から愛することの出来難い大人に成長すると言われる。

3. 本日の聖書の言葉

「ハンナはとどまって子に乳を与え、乳離れするまで育てた」サムエル上1:23

ハンナはイスラエルの有名な指導者となるサムエルの母親である。この個所において聖書は母ハンナの息子サムエルに対する子育ての方法を語る。この方法はハンナが行っただけではなく、古代パレスチナにおいて健やかに子どもが成長するために最善なる方法だと考えられていた。子どもの乳離れの年齢は7、8歳だと言われる。ハンナはサムエルが7、8歳になるまでサムエルの養育に集中し、彼の要求に応え続けてきたのである。

「隣人を自分の様に愛しなさい」 マタイによる福音書22:39

(自分を愛さない人間は、他者を愛する事はできない)

人間は母親を通して人に愛されるという経験をする。その事により、人間は自らの存在意義に気づき、自らの尊い存在であるという認識(自己肯定感)を獲得していく。母親から十分な愛を受けていない子どもたちは、人を愛する方法を知らない。また自らの自己受容を十分に行うことができ難い。また、自らの存在を愛する事ができない人々は、他者を愛する事はでき難い。

日本基督教団飢肥教会牧師、子供の家幼稚園園長 葛井義顕